

Nittobo Group

Sustainability Databook

2025

日東紡グループ サステナビリティデータブック2025

Nittobo

Contents

03 イソTRODクシヨソ

- [03 日東紡グループの理念体系](#)
- [04 会社概要](#)
- [05 事業概要](#)
- [07 数字でみる日東紡グループ](#)
- [08 サステナビリティ経営](#)
- [09 マテリアリティ](#)

11 環境

- [11 環境マネジメント](#)
- [12 マテリアルフロー](#)
- [13 気候変動への対応](#)
- [15 資源循環](#)
- [16 水資源](#)
- [17 環境貢献商品の開発](#)

18 社会

- [18 人財](#)
- [21 ダイバーシティ・エクイティ & インクルージヨソ](#)
- [22 働き方改革と健康経営](#)
- [23 労働安全衛生
品質保証](#)
- [24 人権
サステナブル調達](#)
- [25 地域活動](#)

26 ガバナソス

- [26 コーポレート・ガバナソス](#)

29 付表

- [29 グラフ集](#)
- [31 第三者保証報告書](#)
- [32 外部評価・社外表彰](#)

編集方針

日東紡グループは、環境・社会・ガバナソスに関する取り組み及び連データ等を集約・開示し、ステークホルダーの皆様に日東紡グループの企業活動についてご理解いただくことを目的として「日東紡グループ サステナビリティデータブック」を発行しました。国際的なレポートィングガイドラインであるGRIスタンダードを参照して検索性を高めた構成とし、必要な情報を網羅しています。

日東紡グループの価値創造プロセスや中長期的な戦略については「日東紡グループ 統合報告書2025」、サステナビリティの基本的な考え方については「サステナビリティサイト」で公開していますので、本データブックとあわせてご活用ください。

[PDF](#) [統合報告書2025](#)

[WEB](#) [サステナビリティサイト](#)

報告対象範囲

日東紡及び国内外の連結子会社

報告対象期間

2024年度(2024年4月～2025年3月)を対象としています。一部2025年4月以降の活動実績を含んでいます。

参考にしたガイドライン

GRIサステナビリティ・レポートィング・スタンダード

発行日

2025年12月

第三者保証

環境データ、社会データの一部について、株式会社サステナビリティ会計事務所による第三者保証を受けています。➔ [P.31](#)

お問い合わせ

日東紡績株式会社 東京本部 企画総務部
〒102-8489 東京都千代田区麴町2-4-1(麴町大通りビル)
TEL : 03-4582-5060(代表)
URL : <https://www.nittobo.co.jp/>

日東紡グループの理念体系

経営理念

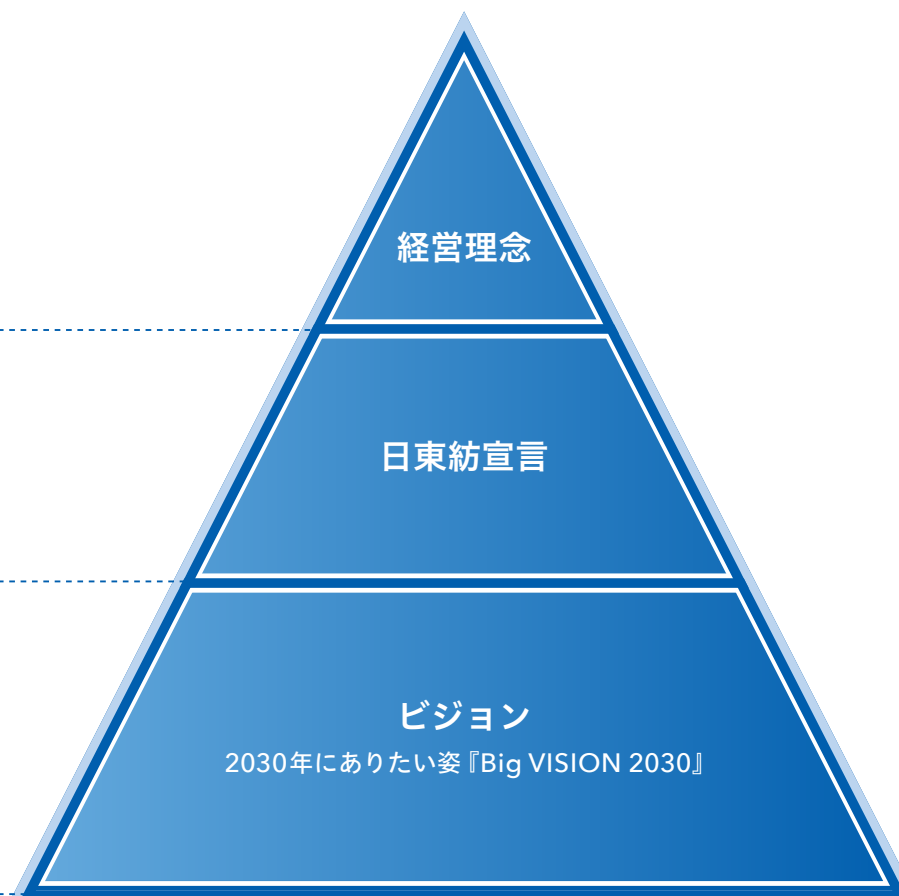
日東紡グループは「健康・快適な生活文化を創造する」企業集団として社会的存在価値を高め、豊かな社会の実現に貢献し続けます。

日東紡宣言

日東紡グループは社会の「ベストパートナー」を目指します。
「日東紡でよかった」それが、私たちの誇りです。

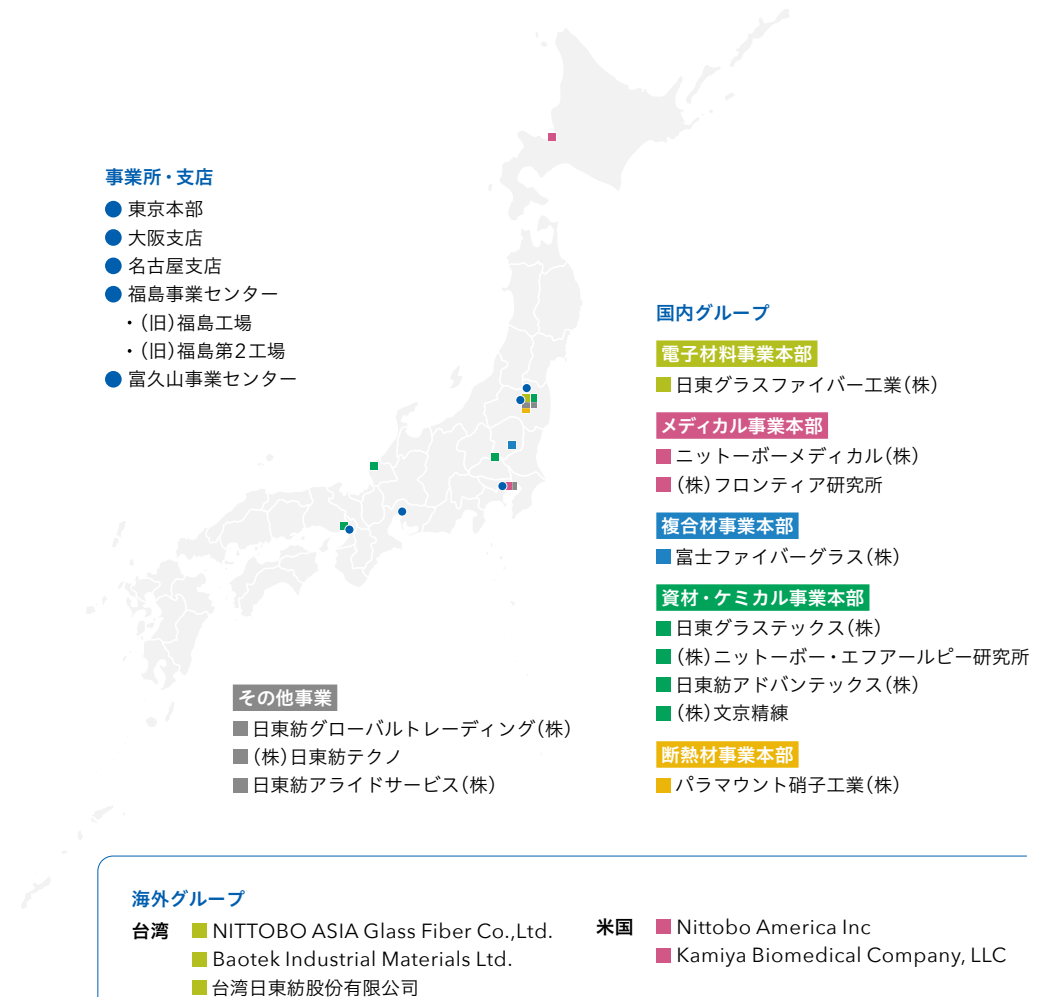
ビジョン

全てのステークホルダーから「日東紡でよかった」と思われる企業グループを目指す
持続可能な社会実現のために、
「環境・エネルギー」「デジタル化社会」「健康・安心・安全」に貢献する
グローバル・ニッチ No.1を創造し続ける企業グループ



会社概要

会社名	日東紡績株式会社
設立	1898(明治31)年2月 郡山絹糸紡績株式会社(郡山)設立 1918(大正7)年4月 福島精練製糸株式会社(福島)設立 1923(大正12)年4月 日東紡績株式会社創立
本店所在地	福島県福島市郷野目字東1番地
本部所在地	東京都千代田区麹町二丁目4番地1
資本金	196億円
代表者	取締役 代表執行役社長 多田 弘行
従業員数	(連結)2,745名、(単体)825名(2025年3月31日現在)
連結子会社	17社



事業概要

日東紡グループは5つの事業本部で製品の開発、製造、販売を行っており、各市場の変化を的確に捉え、ニーズを先取りすることで、グローバル・ニッチNo.1を追求しています。また、基礎研究・生産技術研究は技術開発本部で一括して行い、持続的成長と企業価値向上のための技術基盤の構築に取り組んでいます。



電子材料事業

当社が独自開発した特殊組成のスペシャルガラスを軸に、ガラスヤーン(糸)及びガラスクロスを開発・製造・販売。スペシャルガラスは低誘電・低熱膨張などの特性により、プリント基板の絶縁材として高い評価を得ています。

主な製品



ヤーン

数種類のガラス組成や複数のフィラメント径など独自のラインアップで、プリント配線基板や産業資材として使用



ガラスクロス

ヤーンを布状に織り特殊な処理を施した製品で、絶縁性・耐熱性・寸法安定性に優れ、プリント配線基板の基材に使用



メディカル事業

血液や尿などから健康状態を調べる体外診断用医薬品を提供。原料製造から試薬販売までのグローバル・バリューチェーンを構築することで高品質な製品を安定的に供給しており、炎症マーカーなど多くの項目でトップシェアを獲得しています。

主な製品

体外診断用医薬品

原料から製品までの一貫体制を確立し、健康診断や人間ドックで使用される体外診断用医薬品を多数ラインアップ
特に免疫系の血漿タンパク分野で世界から厚い信頼を獲得



事業概要



複合材事業

プラスチック強化材としてのガラス繊維を開発・製造・販売。幅広い製品群でFRP*1やFRTP*2用途において多様なニーズに対応しています。

*1 FRP：繊維強化プラスチック *2 FRTP：繊維強化熱可塑性プラスチック

主な製品

ロービング



複合材料基材として最も応用範囲が広く、住設機器ほか幅広い分野で使用

チョップドストランド



成形法や樹脂との親和性の面から常に開発を行っており、多方面の用途に対応

チョップドストランドマット



最新鋭マットマシンと厳重な品質管理により生産する、高品質ガラスファイバー基材

カットファイバー



ガラスファイバーを粉末状にしたもので、樹脂に充填することで強度・耐熱性を向上



資材・ケミカル事業

ガラスファイバーの耐熱・耐火性や軽量性を活かした産業資材用ガラスファイバー事業、機能性ポリマーなどのケミカル事業、繊維事業を展開しています。

主な製品

産業資材用ガラスファイバー



高強度、対候性に優れた特性を活かし、スタジアム用膜材、塗膜防水など幅広く使用

用途の一例：ロールブラインド

ケミカル



独自の原料や製造ノウハウを活かした新規性の高い機能性ポリマー

繊維(接着芯地)



コートなどの表地と裏地の間に使う副資材で、高級婦人服市場で大きなシェア

繊維(ふきん)



(株)暮しの手帖社との共同研究によるロングセラー商品「日東紡の新しいふきん®」



断熱材事業

優れた断熱性能に加え、不燃性や吸音性など多様な機能を持つグラスウールの研究開発・製造・販売をグループのパラマウント硝子工業(株)が担っています。

主な製品

住宅用グラスウール断熱・吸音材

リサイクルガラスを主原料とした繊維系断熱材で、住宅の幅広い部位に使用



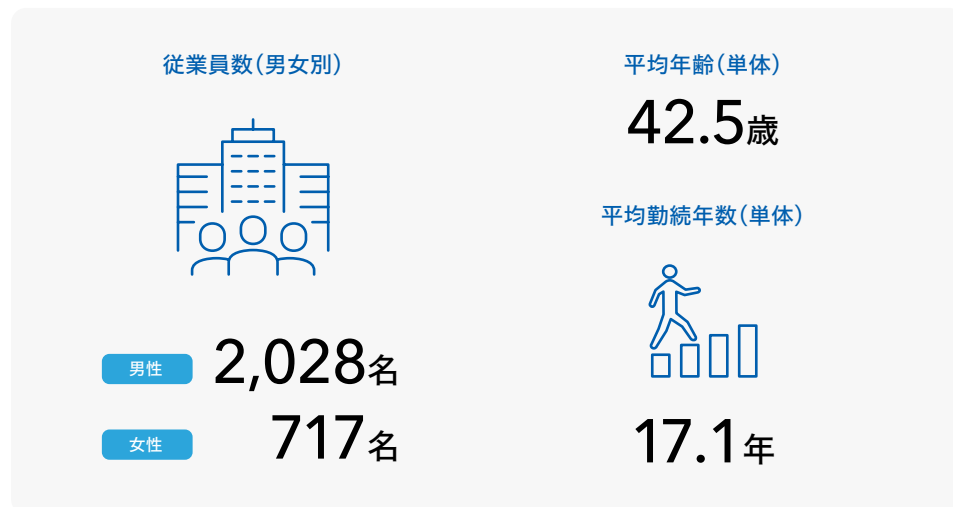
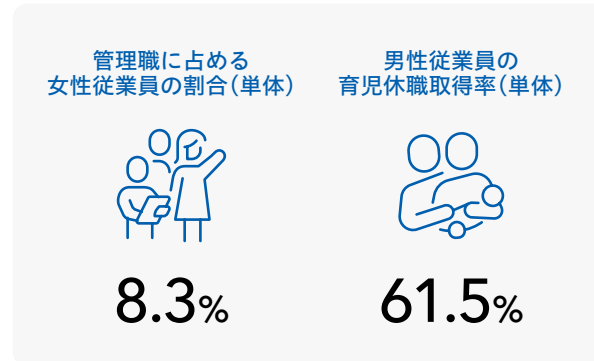
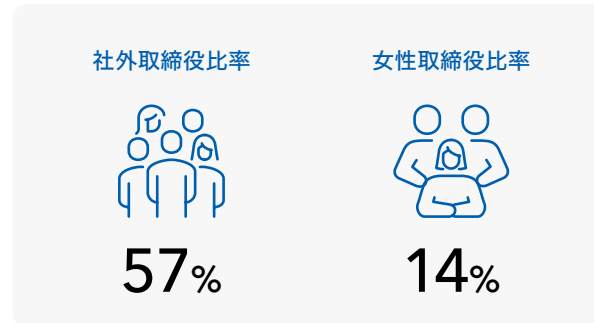
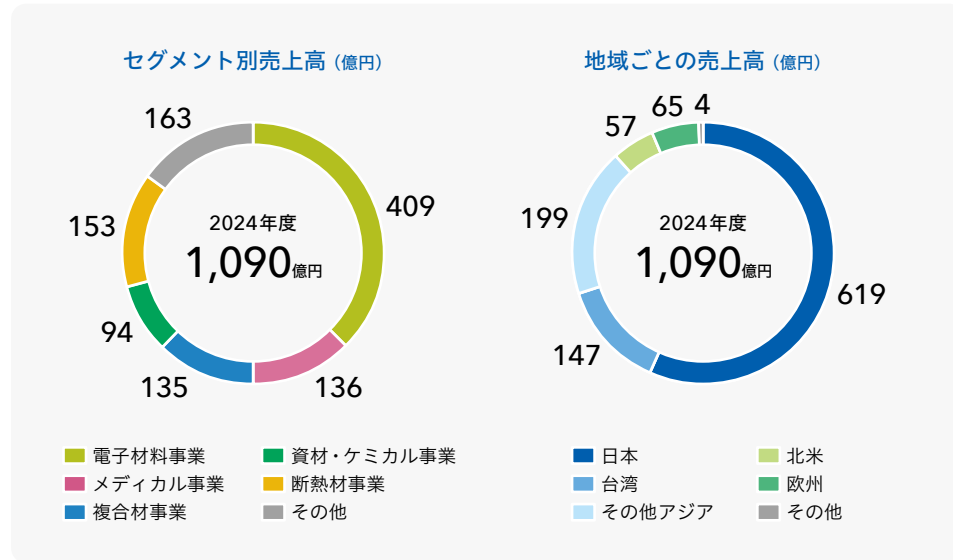
建築・産業用グラスウール断熱・吸音材

グラスウールの特性を活かし、温熱環境の改善や騒音対策に貢献



用途の一例：スポーツ研究施設

数字でみる日東紡グループ



※2024年度実績

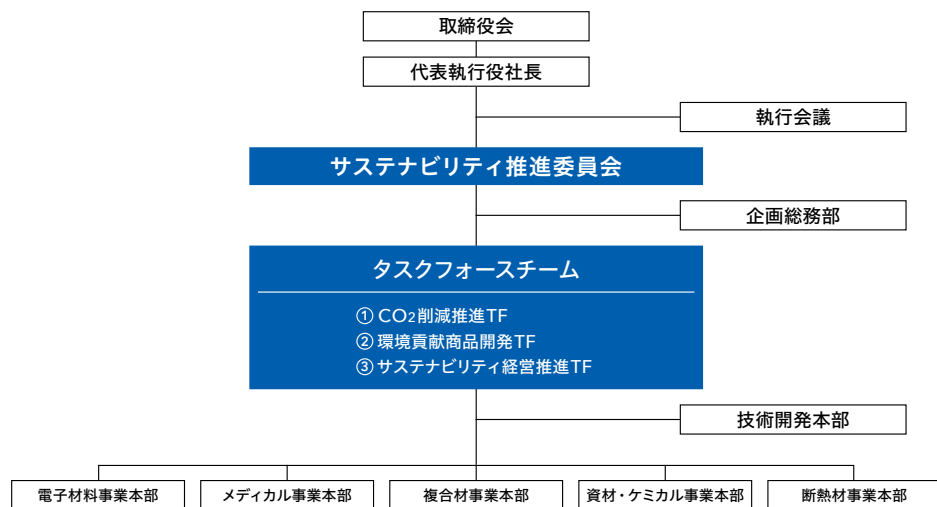
サステナビリティ経営

基本的な考え方

日東紡グループは、企業市民としての責任を自覚し、「豊かな社会の実現に貢献」することを経営理念に掲げ、ESG (Environment：環境、Social：社会、Governance：ガバナンス) 課題の解決に取り組んでいます。事業活動を通じて価値を創造し社会に貢献することで、企業価値向上と持続的成長を目指しています。

サステナビリティ経営の推進体制

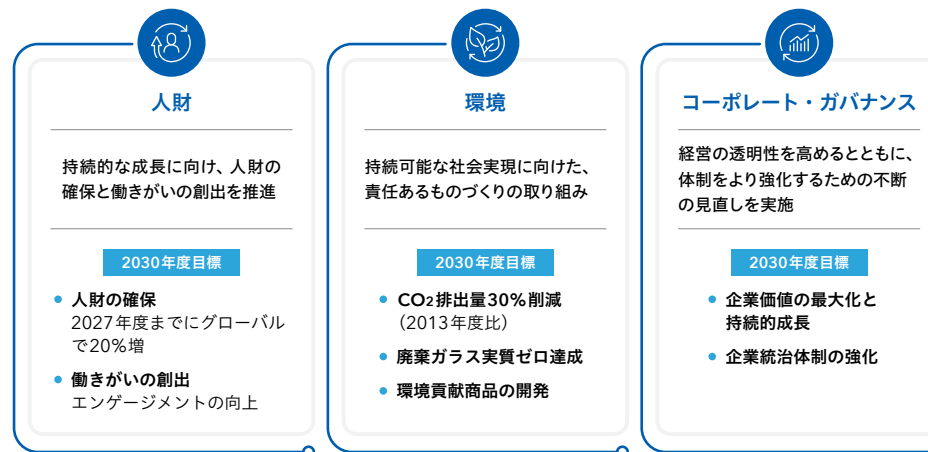
2021年4月に設置したサステナビリティ推進委員会は、代表執行役社長を委員長とし、各事業本部長、企画管理本部長、技術開発本部長から構成されます。サステナビリティ推進委員会は定期的に開催され、討議・決定された重要な事項については、取締役会へも報告され活発な議論が展開されています。



サステナビリティ推進委員会討議・決定内容と推進状況

- 2030年度のCO₂排出削減目標値を再設定、当社のCO₂排出の大部分を占めるグラスファイバーの生産においてCO₂排出削減の新たな取り組みを検討するなど活動を推進しています。
- TCFD提言への賛同を決定し、当社グループの全事業場における気候変動によるリスクと機会について検討・開示を行い、毎年見直しを行っています。
- カーボンフットプリントの算出と市場・顧客への開示準備を進めるとともに、社内に向けてはCO₂排出1トンあたり10,000円の社内炭素価格(ICP)を設備投資効果に加算し、CO₂排出削減の取り組みを加速しています。
- 2050年カーボンニュートラル目標を策定、CO₂排出削減に向けた取り組みについて検討を行い、進捗について審議しています。

中期経営計画(2024-2027年度)：サステナビリティの取り組み



マテリアリティ

日東紡グループが社会的存在価値を高め、豊かな社会の実現に貢献し続けるために、社会課題の解決に向け取り組むべき重要課題をマテリアリティに設定しています。

日東紡グループの強みを活かし事業活動を通じて貢献する戦略的CSRの観点と、持続的成長を可能とする基盤構築のためESGに重きを置いた基礎的CSRの観点から、7つのマテリアリティを定め、併せて、社会課題に係る当社グループのリスクと機会を整理し、マテリアリティに沿った主要施策を推進しています。

日東紡グループのマテリアリティ	リスク	機会	主な施策	対応するSDGs
 環境・エネルギーに貢献する 製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 環境対応コストの増大 環境規制による事業の制約 環境非対応製品・企業の排除 	<ul style="list-style-type: none"> サステナブル製品需要の拡大 自動車、航空機の軽量化に対応した複合材需要の拡大 省エネ規制強化による断熱材需要の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 環境貢献商品の開発 	
 気候変動と 資源循環型社会への適応	<ul style="list-style-type: none"> 環境非対応製品・企業の排除 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ規制強化による断熱材需要の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量の削減 廃棄ガラス削減 	
 デジタル化社会に貢献する 製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 技術優位性の低下 他素材による代替 電子材料業界の技術開発スピード 	<ul style="list-style-type: none"> 高速大容量処理を必要とする機器の需要拡大 日本及び電材集積地の台湾における生産体制の活用 先行者メリットによる拡販・次世代品開発の機会獲得 	<ul style="list-style-type: none"> スペシャルガラスによる収益拡大 新規商品の開発力強化 顧客価値を高めるソリューション力の強化 	
 健康・安心・安全に貢献する 製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 少子化による国内市場の縮小 生物由来原料特有の事業継続リスク 他診断薬による代替 	<ul style="list-style-type: none"> 予防意識の高まりによる世界的な「治療から予防」へのシフト 人口増、所得水準上昇を背景としたグローバルにおける診断薬需要拡大 米国の原料生産3拠点の活用 川上(抗原・抗体・原料)から川下(製品製造・販売)に至るバリューチェーンの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 体外診断用医薬品分野の販路拡大 研究開発の加速、新商品開発の推進 顧客価値を高めるソリューション力の強化 	

マテリアリティ

日東紡グループのマテリアリティ	リスク	機会	主な施策	対応するSDGs
<p>経営基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会経済環境の変動要因の多様化 燃料、原材料等の価格変動 サプライチェーンへの地政学・人権問題等による影響 	<ul style="list-style-type: none"> 選択と集中 イノベティブな技術開発による成長機会の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 景気変動に負けない筋肉質経営 事業ポートフォリオの最適化、不採算事業の見直し IT/DX導入による技術開発・生産技術の変革 調達・サプライチェーンにおけるサステナビリティの維持 	
<p> 持続的成長を続ける企業の実現</p> <p>人財の確保と働きがいの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化による労働人口の減少 若手、専門人財の採用競争激化 	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティの拡大 労働市場の流動化 人財育成により期待されるイノベーション 	<ul style="list-style-type: none"> イノベーション人財の育成 ダイバーシティ&インクルージョンの推進 働き方改革と業務改革 従業員エンゲージメントの向上 外部採用の強化 シニア人財の活用 	
<p>コーポレート・ガバナンスの不断の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> CSR領域の拡大と内容の高度化 リモート環境下でのコンプライアンス、セキュリティ 	<ul style="list-style-type: none"> 企業理念の浸透 社会からの信認による企業基盤の強化 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンスの不断の見直し 企業倫理、コンプライアンスの徹底 	

Environment

環境

【環境マネジメント】

日東紡グループは、「日東紡環境憲章」及び「環境に関する全社方針」に基づき、気候変動への対応、資源の有効活用、有害物質削減、生物多様性の保全などに積極的に取り組んでいます。こうした環境活動を適切に運用するため、各事務所・グループ会社にて、EMSの国際規格「ISO14001」を認証取得し、環境マネジメントシステムを構築しています。高品質な製品を安定して提供できる仕組みを構築・運用し、社会やお客様の期待を超える製品を提供していきます。

ISO14001 認証取得状況

項目	範囲	単位	2022年4月時点	2023年4月時点	2024年4月時点
ISO14001：認証取得率	グループ	%	47	47	47

ISO14001 認証取得事業所

会社・事業所	認証取得年月日	会社・事業所	認証取得年月日
福島事業センター/(旧)福島工場・(旧)福島第2工場	2001年1月	パラマウント硝子工業(株) / 鈴鹿工場	2010年3月
富士ファイバーグラス(株)	2003年2月	パラマウント硝子工業(株) / 江別工場	2003年3月
日東グラステックス(株)	2003年1月	日東グラスファイバー工業(株)	2022年4月
パラマウント硝子工業(株) / 長沼工場	2001年3月	Baotek Industrial Materials Ltd.	2011年1月

※2025年3月現在

【マテリアルフロー】

INPUT

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー投入量*1	グループ	百万GJ	6.20	6.00	5.41
主原料投入量	グループ	万t	15.3	12.8	12.2
リサイクル材の受入量*2	グループ	万t	4.8	4.4	4.4
取水量	グループ	万m ³	1,067	828	866
リサイクル量*3	グループ	万t	2.6	2.3	2.3

*1 エネルギー投入量：工場、事務所などで使用した燃料と買電の合計エネルギー量

*2 リサイクル材の受入量：他社から当社の工場が原料として受け入れた循環資源量

*3 リサイクル量：工場などで発生した廃棄物のうち有効活用・循環利用した廃棄物量

OUTPUT

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
温室効果ガス Scope1+2*1	グループ	千t-CO ₂	309	280	269
廃棄物処分量*2	グループ	万t	1.2	0.8	0.7
PRTR対象物の環境排出量*3	グループ	t	45	53	55
排水量	グループ	万m ³	570	532	598

*1 自社の事業活動によるCO₂排出量：工場、事業所などでエネルギーを使用することにより排出したCO₂の量

*2 廃棄物処分量：工場などで発生した廃棄物のうち単純焼却・埋立処分などの非有効活用廃棄物量

*3 PRTR対象物質の環境排出量：工場などから大気・水域へ排出されたPRTR法(化学物質排出把握管理促進法)対象物質の量

【気候変動への対応】

地球規模の課題である温室効果ガスの削減に向け、省エネ活動の推進、再生可能エネルギーの利用拡大などに努めています。2024年度は、富久山事業センター(福島県郡山市)に太陽光発電システムを導入しました。これにより年間3,284MWhの発電量を見込んでおり、年間約1,600トン*のCO2排出量削減につながる見通しです。福島事業センター(福島県福島市)では、グラスファイバー製造におけるカーボンニュートラル実現のため、ガラス熔融炉での水素利用の可能性について調査し、2024年2月、天然ガス燃焼による熔融炉全体熱量の10%を水素燃焼エネルギーに転換する実証実験を行い、良好な結果を確認しました。こうした水素への燃料転換に向けた取り組みを進めるほか、グループ全体でのエネルギー管理体制の高度化に向け、発電電力におけるCO2排出量削減効果やエネルギーコスト削減効果を最大化する検討を行っています。

*電力のCO2排出係数：0.488kg-CO2/kWhとした場合の削減量

再生可能エネルギー使用量

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
電力使用量	グループ	MWh	374,823	362,021	388,625
再生可能エネルギー由来の電力(うち発電量：太陽光)	グループ	MWh	621	638	3,937
電力使用量に占める再生可能エネルギー比率	グループ	%	0.17	0.18	1.01

エネルギー消費量

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー消費量	グループ	百万GJ	6.20	6.00	5.41

温室効果ガス排出量 (Scope 1, 2, 3)

Scope	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1	グループ	千t-CO ₂	158	140	132
Scope2	グループ	千t-CO ₂	151	140	137
Scope1, 2合計	グループ	千t-CO ₂	309	280	269
Scope3	グループ	千t-CO ₂ e	163	180	238
カテゴリー1	グループ	千t-CO ₂ e	109	101	135
カテゴリー2	グループ	千t-CO ₂ e	21	29	50
カテゴリー3	グループ	千t-CO ₂ e	29	46	47
カテゴリー4	グループ	千t-CO ₂ e	3.2	3.6	3.9
カテゴリー5	グループ	千t-CO ₂ e	0.7	0.5	0.7
カテゴリー6	グループ	千t-CO ₂ e	0.3	0.4	0.4
カテゴリー7	グループ	千t-CO ₂ e	0.3	0.3	0.3
Scope1, 2, 3合計	グループ	千t-CO ₂ e	472	460	507

※Scope3 カテゴリー8,9,10,11,12,13,14,15は、実態把握及び合理的な推計が困難なため、算定から除外しています

Scope3に関する環境データ算定方法

カテゴリー	算定方法
1 購入した製品・サービス	原料・資材の購入金額にそれぞれの原料・資材の購入者価格ベースの排出原単位を乗じて算定
2 資本財	設備投資額に資本財価格あたりの排出原単位を乗じて算定
3 Scope1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	燃料や電力の購入量にエネルギー種別の排出原単位を乗じて算定
4 輸送・配送(上流)	荷主としての製品出荷量及び原料・資材の購入量に輸送距離を乗じ、輸送手段別の排出原単位を乗じて算定
5 事業から出る廃棄物	廃棄物排出量等に廃棄物種類別の排出原単位を乗じて算定
6 出張	従業員数に従業員あたりの排出原単位を乗じて算定
7 雇用者の通勤	通勤費に交通区分別の排出原単位を乗じて算定

【資源循環】

地球上の天然資源には限りがある一方で、人口増加と経済発展により資源需要は拡大しています。日東紡グループは「気候変動と資源循環型社会への適応」をマテリアリティに掲げ、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、資源の有効活用に取り組んでいます。グラスウールは、代替フロンを使わないノンフロン断熱材であり、原料の80%以上にリサイクル資源を活用するほか、使用済みグラスウールの一部を回収・再利用することで、3Rの実践に貢献する製品です。

廃棄物

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
最終処分量	グループ	t	11,850	7,690	7,417
リサイクル率	グループ	%	68.5	74.7	75.3

化学物質管理

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
PRTR対象物取扱量	グループ	t	3,230	2,993	2,790
PRTR化学物質排出量	グループ	t	45	53	55

大気汚染物質排出量

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
窒素酸化物(NOx)排出量	グループ	t	396	381	431
硫黄酸化物(SOx)排出量	グループ	t	27	16	8
ダスト排出量	グループ	t	42	26	22
揮発性有機化合物(VOC)排出量*	グループ	t	—	—	—

*VOC排出施設はないため該当なし

【水資源】

日東紡グループは、水資源を重要な共有資産と捉え、その保全と持続的な利用に責任をもって取り組んでいます。また、WRI(世界資源研究所)が開発した評価ツールであるAqueduct(アキダクト)を使用し、全16の生産拠点において水ストレス・水リスクの評価を実施しています。今後も定期的なモニタリングを継続していきます。

取水量及び排水量

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
取水量	グループ*	万m ³	1,067	828	866
取水原単位	グループ	万m ³ /百億円	98.5	88.8	79.4
排水量	グループ	万m ³	570	532	598

*ニットーピバレッジは2022年に当社連結対象から除外されたため、2023年度以降の取水量実績には含まれません

水質汚染物質排出量

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
化学的酸素要求量(COD)排出量	グループ	t	52	49	58
生物化学的酸素要求量(BOD)排出量	グループ	t	21	21	27
浮遊物質(SS)排出量	グループ	t	34	22	27

水ストレスの評価

水ストレスレベル	単位	水ストレス地域に対する取水量の割合(2025年3月)
Low (<10%)	%	0.8
Low-medium (10-20%)	%	83.3
Medium-high (20-40%)	%	15.7
High (40-80%) 以上	%	0.1

【環境貢献商品の開発】

日東紡グループの保有する技術力と製品に関する知見を駆使し、事業を通じて環境負荷低減に貢献していきます。2024年度は、持続可能な製品の国際的な認証制度の一つであるISCC (International Sustainability and Carbon Certification：国際持続可能性カーボン認証)PLUS認証を、福島事業センターと当社グループ会社の富士ファイバークラス(株)にて取得しました。今後、マスバランス方式*を用いた実用的なりサイクルの実装を進めていきます。

*マスバランス方式：複数の種類の原料により製品を製造した際に、再生原料やバイオマス原料等の投入量に応じて、製品の一部にその特性を割り当てる方式

ISCC PLUS 認証取得事業所

会社名	製品	取得時期
日東紡績(株)/福島事業センター【(旧)福島工場】	ロービング、チョップドストランド、カットファイバー	2024年10月
富士ファイバークラス(株)	ロービング、チョップドストランド、カットファイバー、チョップドストランドマット	2024年11月

Social
社会

【人財】

日東紡グループは、「社員の成長が会社の成長」であることを信じ、社員に成長と自己実現の機会を提供しています。2030年のありたい姿を示した長期ビジョン『Big VISION 2030』では、「イノベーション人財の育成」をテーマに掲げ、管理職層の人財マネジメントの研修、グローバル人財育成、外部との技術交流などを推進しています。

項目		範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
従業員総数	正社員数	グループ	名	2,631	2,690	2,745
		男性	名	1,957	1,992	2,028
		女性	名	674	698	717
	非正規社員数	グループ	名	—	—	432
	正社員数	単体	名	787	793	825
		男性	名	614	614	638
		女性	名	173	179	187
	非正規社員数	単体	名	—	—	152
		男性	名	—	—	111
		女性	名	—	—	41

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度	
新卒社員数(大学・大学院卒)	グループ	名	14	23	27	
	男性	名	9	15	20	
	女性	名	5	8	7	
新卒社員数(高校・専門卒)	グループ	名	27	22	24	
	男性	名	22	18	20	
	女性	名	5	4	4	
国外従業員	グループ	名	825	863	890	
外国籍従業員	単体	名	3	4	6	
	単体	%	0.4	0.5	0.7	
平均勤続年数	単体	年	18.5	18.0	17.1	
	男性	年	18.8	18.0	16.8	
	女性	年	17.8	17.9	18.3	
キャリア採用者	グループ	名	—	—	53	
	単体	名	9	17	28	
キャリア採用率	単体	%	1.1	2.1	3.4	
平均年齢	単体	歳	43.3	43.0	42.5	
離職率	単体	%	5.2	3.2	3.2	
	自己都合退職率	単体	%	3.1	2.8	2.8
	会社都合退職率	単体	%	2.1	0.4	0.4
	入社3年後までの離職	単体	%	9.6	17.2	8.3
1人当たりの平均研修時間	グループ	時間	4.2	5.8	5.5	
	単体	時間	12.2	17.7	16.6	
1人当たりの平均研修費用	グループ	円	198,423	173,447	161,335	

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
海外・外部派遣制度利用者数	グループ	名	—	3	2
自己啓発支援制度利用者数	グループ	名	465	362	309
キャリア開発に関する定期的な評価を受けている従業員の割合	グループ	%	100	100	100
DX研修受講率	単体	%	19.2	38.7	59.8
女性管理職候補研修	グループ	%	51.3	49.8	23.9
キャリア研修受講率	グループ	%	—	—	21.7
従業員エンゲージメントスコア	グループ	%	53	53	55
従業員エンゲージメントスコア回答率	グループ	%	92	89	88

【ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン】

すべての従業員が貴重な財産であるとの考えのもと、多様な人財を確保し、活かすことのできるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの取り組みを推進しています。女性活躍については、管理職候補者との定期面談や外部研修などを通じて、女性が管理職として活躍できる環境づくりを進めています。障がい者雇用については、東京本部に障がい者雇用に特化した「業務サポートオフィス」を設置しており、障がい者雇用率2.7%の目標に向け、2025年度より従業員向けのコーヒーの焙煎業務を開始しました。このほか、定年前研修などを通じて60歳以降もモチベーション高く働くことができるようなライフ・キャリア形成の支援、育児や介護の両立支援制度などを通じて、さまざまな立場や背景を持つ従業員が互いに尊重し、一人ひとりが存分に活躍できる職場環境づくりを推進しています。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
女性従業員比率	グループ	%	25.6	25.9	26.1
	単体	%	22.0	22.6	22.7
女性管理職比率	単体	%	5.0	6.6	8.3
外国人管理職数	単体	名	0	0	1
キャリア採用者管理職比率	単体	%	42.5	44.3	42.4
従業員の平均年間給与	単体	円	6,726,126	6,726,038	7,188,300
男女賃金差異	単体	%	77.1	78.3	80.6
	正社員	%	77.9	79.0	82.7
	非正規社員	%	60.6	61.9	60.3
障がい者雇用率	単体	%	2.4	2.4	2.6
定年退職後再雇用率	グループ	%	81	88	89
	単体	%	84	92	90
再雇用希望者雇用率	単体	%	100	100	100

※各年度3月末現在
 ※障がい者雇用率は各年6月1日現在

【働き方改革と健康経営】

日東紡グループは、従業員の心身の健康維持・増進を積極的に支援し、生産性向上と従業員のQOL向上の両立に努めています。当社従業員1人当たりの月平均時間外労働時間は8.0時間(2024年度)と、製造業の平均を大きく下回る水準にあります。従業員が最大のパフォーマンスを発揮できると同時に、適切なワークライフバランスを保てるよう、働く環境の整備を行っています。健康経営に関しては、スマートフォンアプリを活用したウォーキングプログラムやスポーツジムの無料利用など、2024年度も心身のリフレッシュを促進する取り組みを継続して実施しました。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度	
一人当たりの年間総実労働時間	単体	時間	1828.1	1833.1	1851.4	
月平均時間外・休日労働	単体	時間	6.8	7.2	8.0	
テレワーク実施率	単体	%	72.7	70.5	70.2	
年間有給休暇付与日数	単体	日	19.1	19.1	18.9	
平均有給休暇取得日数	単体	日	11.0	12.1	11.7	
年間有給休暇取得率	単体	%	56.7	66.7	69.1	
介護休業利用者数	単体	名	0	0	1	
産前産後休暇取得率	単体	%	100	100	100	
育児休職からの復職率	単体	%	100	100	100	
育児休職取得率	単体	%	47.6	79.3	70.6	
	男性	単体	%	47.1	73.9	61.5
	女性	単体	%	100	100	100
育児休職取得者数	単体	名	10	23	12	
	男性	単体	名	8	17	8
	女性	単体	名	2	6	4
ストレスチェック受診率	単体	%	—	—	97.9	
労働組合加入従業員率	単体	%	82.5	81.2	82.4	
労働組合加入従業員率(労働組合を持つ子会社)	グループ	%	89.4	88.1	86.4	

【労働安全衛生】

日東紡グループは、従業員の安全と健康を経営の基盤と位置づけ、安全な職場環境の整備や教育、情報共有を推進しています。事業本部と本社部署により事業所の安全衛生診断を定期的に行い、事業所是指摘項目の改善を図ることで、グループ内の安全管理水準の均質化と向上を図る取り組みを行っています。さらに、各拠点に労働安全衛生委員会を設置し、災害・事故リスクへの対応にも取り組んでいます。2024年度は、事業所安全衛生診断、安全強化月間、リスクアセスメント強化、事業所火災リスク診断、グループ内の災害対策レポートの情報共有を実施しました。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
ISO45001：認証取得率	グループ	%	10	10	10
労働災害強度率	単体	—	0.01	0.03	0.02
従業員の安全衛生リスク評価が行われた事業所の割合	グループ	%	100	100	100

【品質保証】

日東紡グループでは、品質と安全性を第一に考え、効率的かつ環境に配慮した生産によりコストの低減に努め、お客様に満足いただける製品づくりを目指しています。お客様が安心して製品の選択ができるよう「日東紡行動規準」の下、コンプライアンスの徹底と適切な情報提供、リスク管理に努めています。品質管理体制の強化に向けてグループ品質管理委員会や分科会を設置し、方針決定や施策の進捗管理を行っています。新技術の開発や研究にも積極的に取り組み、高品質な製品・サービスの提供を通じて社会に貢献していきます。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
ISO9001：認証取得率	グループ	%	67	65	65

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
研究開発費	グループ	百万円	2,950	2,825	2,983

【人権】

日東紡グループは、人権の尊重は企業として果たすべき重要な社会的責任であると認識するとともに、「世界人権宣言」、国連「グローバル・コンパクト」、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」などの国際規範の考え方に賛同し、豊かな人権文化の創造を目指しています。その一環として、「責任ある企業行動実施宣言」を策定し、人権啓発の推進に積極的に取り組んでいます。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
団体交渉権を持つ従業員の割合	グループ	%	85.7	84.4	84.3

【サステナブル調達】

「日東紡グループ サステナブル調達方針」のもと、サプライヤーの皆様と社会的使命や課題を共有し、サプライチェーン全体での持続可能な社会の実現と相互発展を目指しています。2023年度より、購入金額の約80%を占めるサプライヤーを対象に、サステナブル調達の推進に関するアンケートとフィードバックを実施しています。アンケートの結果、プロセスの深堀が必要と判断した場合は訪問による直接対話で理解の浸透を図っています。このほか、主要な2次サプライヤーへの現地訪問も実施しています。今後もサプライヤーの皆様とさらなる対話を重ねながら、持続可能な調達活動に努めていきます。

項目	範囲	単位	2022年度	2023年度	2024年度
主要サプライヤーへのサステナブル調達に関するアンケート回収率	グループ	%	—	100	74
アンケート実施サプライヤーへのリスク評価のフィードバック・共有の割合	グループ	%	—	100	100
主要な2次サプライヤーの現地訪問	グループ	社	—	16	20
持続可能な資材調達に関する研修を受けた購買担当者の割合	グループ	%	—	82	88

【地域活動】

各事業所では、地域社会とのつながりを大切にし、ともに発展していくことを目指したさまざまな取り組みを行っています。日東紡の創業地である福島県郡山市では、郷土の伝説・采女物語をテーマにした「うねめ祭り」に参加しています。また、「福島ユナイテッドFC」(サッカーJ3リーグ所属)のオフィシャルクラブパートナーを務めるほか、地域の美化活動、工場見学会、教育支援などを実施しています。地域社会との信頼関係を構築しながら、文化支援、地域の活力向上に取り組んでいきます。

各拠点での主な地域活動

- 地域活動(交通指導、環境美化活動)などへの参加・協力
- 出張環境学習や子ども化学教室の実施、工場見学の受け入れ
- 地域イベントへの参加
- 「福島ユナイテッドFC」オフィシャルクラブパートナーとしてのスポーツ振興・地域活性化支援
- 地域の省資源・省エネルギー活動への参加



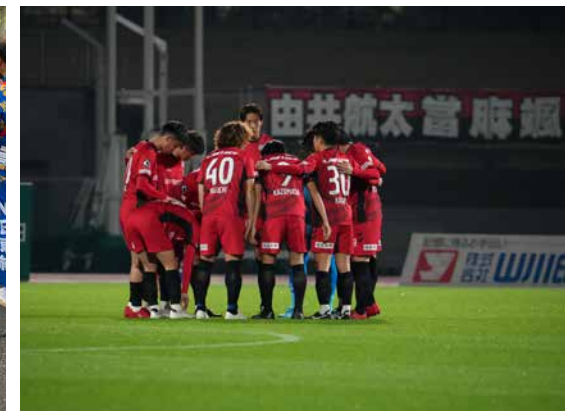
大森川堤防除草作業



工場見学の様子(郡山市)



「うねめ祭り」参加



福島ユナイテッドFC

写真提供：福島ユナイテッドFC

Governance

ガバナンス

【コーポレート・ガバナンス】

日東紡グループは、ステークホルダーからの社会的信頼を重視するとともに、公正で透明性の高い経営組織の構築を目指し、指名委員会等設置会社の設置、社内取締役と同数以上の社外取締役の選任、取締役会の実効性評価など、コーポレート・ガバナンスの不断の見直しを行っています。

役員構成

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
取締役(うち女性)	名	7(1)	7(1)	7(1)
社外取締役	名	4(1)	4(1)	4(1)
女性取締役比率	%	14	14	14
監査委員である取締役(うち女性)	名	5(1)	5(1)	5(1)
社外取締役	名	4(1)	4(1)	4(1)
社外取締役比率	%	80	80	80
指名、報酬委員である取締役(うち女性)	名	5(1)	5(1)	6(1)
社外取締役	名	4(1)	4(1)	4(1)
社外取締役比率	%	80	80	67
執行役(うち女性)	名	12(0)	13(0)	12(0)
女性執行役比率	%	0	0	0

※各年度6月現在

※指名委員会設置会社への移行に伴い、2014年6月定時株主総会日付以降、監査役はいません

取締役会及び各委員会会議

項目		単位	2022年度	2023年度	2024年度
取締役会	取締役会開催回数	回	13	13	13
	取締役会出席率	%	100	100	100
監査委員会	監査委員会回数	回	14	13	13
	監査委員会出席率	%	100	98	98
指名委員会	指名委員会回数	回	7	6	5
	指名委員会出席率	%	100	97	100
報酬委員会	報酬委員会回数	回	7	4	3
	報酬委員会出席率	%	100	100	100

報酬

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
取締役(社外を除く)	百万円	69(4名)	60(3名)	69(5名)
社外取締役	百万円	76(5名)	76(4名)	76(5名)
執行役	百万円	239(11名)	281(13名)	363(16名)

※()内は対象となる役員の員数

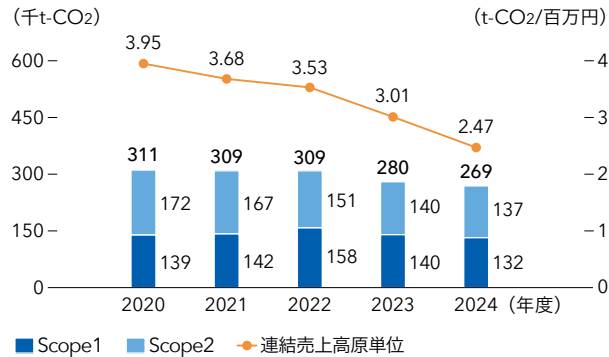
会議体とスキルマトリクス

氏名	在籍年数	参加する会議体				経験・専門性							
		取締役会	指名委員会	報酬委員会	監査委員会	企業経営	グローバルビジネス	営業・マーケティング	技術・研究開発	財務・会計	法務・リスクマネジメント	人事・労務・人材開発	
辻 裕一	10	●	○	○		○	○			○	○		
多田 弘行	1	○	○	○		○	○	○				○	
松永 隆延	1	○			○	○		○	○				
藤重 貞慶	5	○	◎	○	○	○	○	○					
内藤 亜雅沙	5	○	○	○	○		○					○	
中島 康晴	3	○	○	○	◎					○	○		
三井田 健	1	○	○	◎	○	○	○	○				○	○

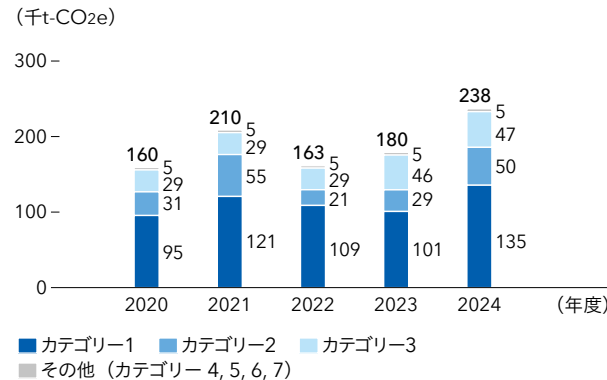
※●議長、◎各会議体の委員長

グラフ集

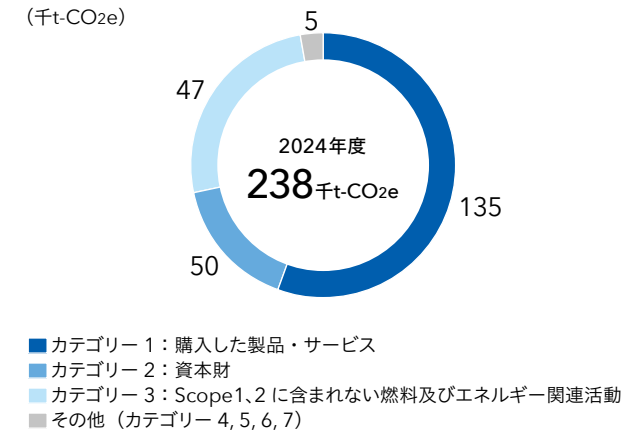
自社の事業活動によるCO2排出量 (Scope1, 2)



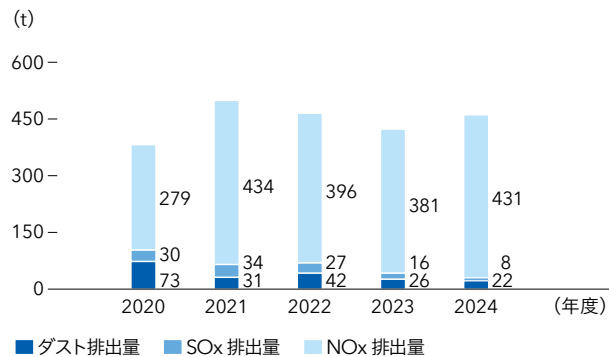
バリューチェーンにおける温室効果ガス排出量 (Scope3)



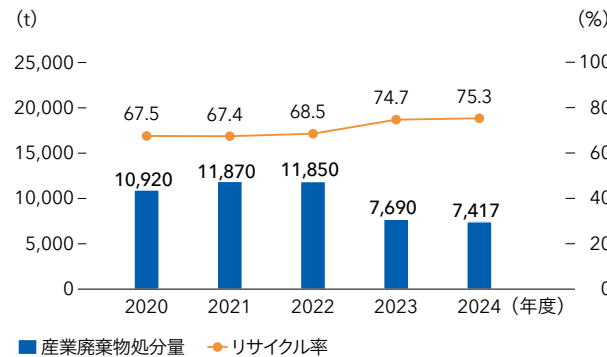
2024年度のScope3各カテゴリーの詳細



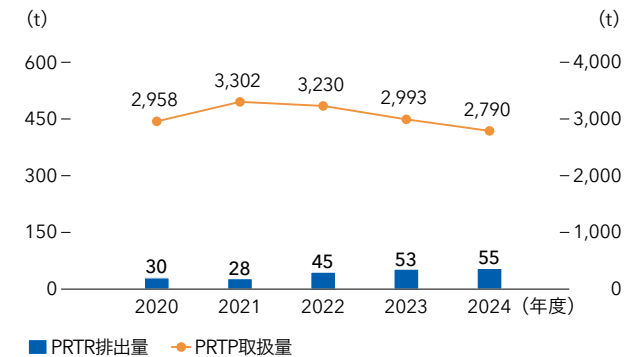
大気汚染物質排出量



産業廃棄物処分量及びリサイクル率

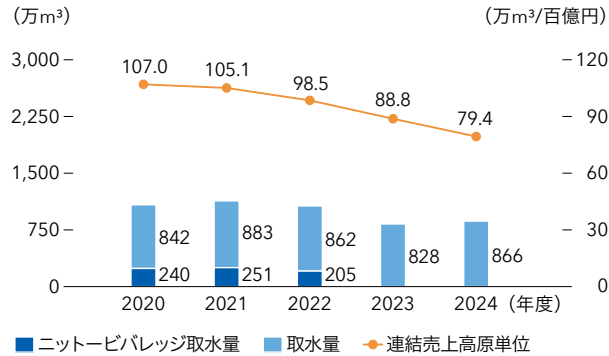


PRTR対象物質排出量及び取扱量



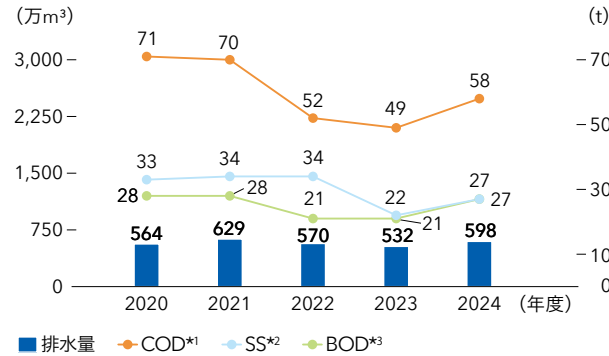
グラフ集

取水量



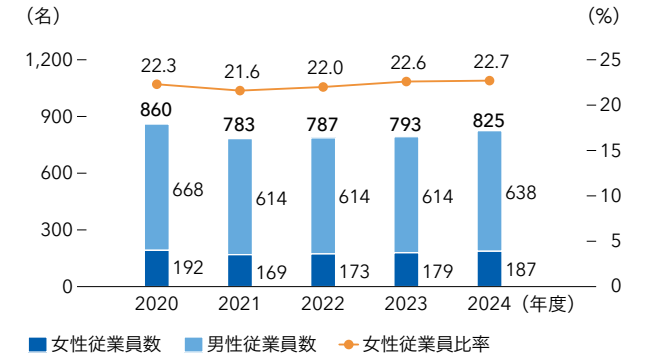
※ニトロービレッジは2022年度に当社連結対象から除外されたため、2023年度以降の取水実績には含まれません

水質汚染物質排出量及び排水量

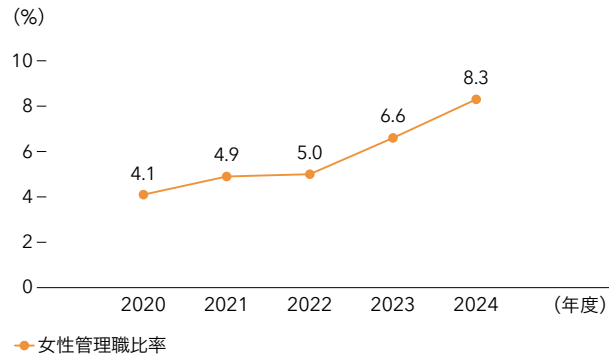


*1 COD(化学的酸素要求量)：水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化するために必要な酸素量
 *2 SS(浮遊物質)：水中に混濁している不溶解物質
 *3 BOD(生物化学的酸素要求量)：生物が水中の有機物を分解するために必要な酸素量

従業員数(単体)/女性従業員比率

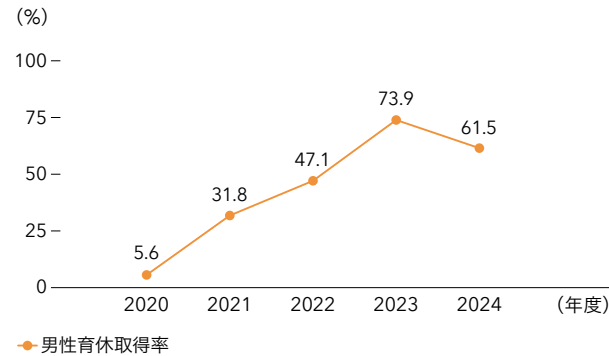


女性管理職比率(単体)

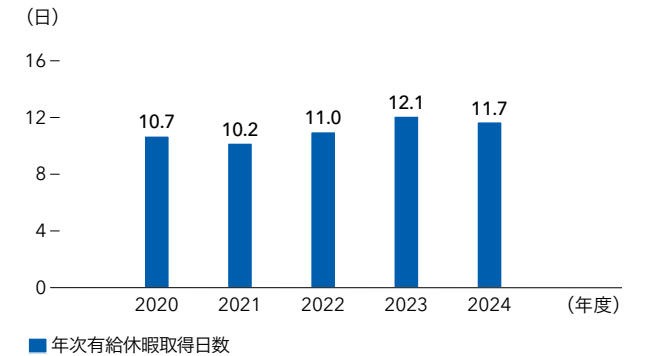


※各年度3月末現在


男性従業員の育児休業取得率(単体)



年次休暇取得日数(単体)



第三者保証報告書




独立第三者の保証報告書

2025年6月10日

日東紡績株式会社
代表執行役社長 多田 弘行 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史



1. 目的

当社は、日東紡績株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、2024年度の会社及び国内外の連結子会社における、CO₂排出量 Scope1：132千t-CO₂、Scope2（マーケット基準）：137千t-CO₂、エネルギー消費量 5.41百万 GJ、会社単体における、女性管理職比率（2025年3月31日時点）：8.3%、男性育児休業取得率（2024年度）：61.5%、（以下「パフォーマンス指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、パフォーマンス指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。パフォーマンス指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 ならびに ISAE3410 に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。


- ・算定方針について担当者への質問・算定方針の検討
- ・事業所往査
- ・算定方針に従ってパフォーマンス指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3. 結論

当社が実施した保証手続の結果、パフォーマンス指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上




独立第三者の保証報告書

2025年8月8日

日東紡績株式会社
代表執行役社長 多田 弘行 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史



1. 目的

当社は、日東紡績株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、2024年度の会社及び国内外の連結子会社における、温室効果ガス排出量 Scope3（カテゴリー1,2,3,4,5,6,7計）：238千t-CO_{2e} に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、温室効果ガス排出量が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。温室効果ガス排出量は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 ならびに ISAE3410 に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問・算定方針の検討
- ・算定方針に従って温室効果ガス排出量が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3. 結論

当社が実施した保証手続の結果、温室効果ガス排出量が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上

外部評価・社外表彰

日東紡グループは、「豊かな社会の実現に貢献」すべくサステナビリティ活動の取り組みを推進し、外部機関から以下の評価を得ています。

CDPにおいて「B」スコアを獲得

2022年からCDP「気候変動プログラム」に回答し、2024年は「B」スコアを獲得しました。今後はリーダーシップレベル(A、A-)を目指し、気候変動に対する取り組みを強化していきます。

※CDPは、英国の慈善団体が管理する非営利慈善団体(NPO)であり、全世界24,800社以上の企業を対象に気候変動や、森林、水セキュリティに対する取り組みの評価を行っています。ガバナンス、リスクマネジメント、事業戦略、目標と実績、エンゲージメントなど多岐にわたる項目の質問への回答から、リーダーシップレベル(A、A-)、マネジメントレベル(B、B-)、認識レベル(C、C-)、情報開示レベル(D、D-)の8段階で評価されます



EcoVadisにおいて「シルバーメダル」「コミットメントバッジ」を獲得

EcoVadisにおいて、福島事業センターで「シルバーメダル」、グループ全体で「コミットメントバッジ」を取得しました。国際的評価機関に認められた取り組みを基盤に、今後もサステナビリティ活動を進化させ、上位メダル獲得を目指します。

※EcoVadisは、180か国・200超の業種にわたる12万社以上の企業を対象に、環境・労働と人権・倫理・持続可能な調達4テーマで総合的に評価します。総合スコアに応じてプラチナ/ゴールド/シルバー/ブロンズのメダルを付与するほか、一定の基準をクリアし、国際的に認められた持続可能性への取り組みを実践している企業には「Committed(コミットメント)バッジ」が授与されます



「くるみん」「えるぼし」認定の取得

次世代育成支援対策推進法に基づき、子育てサポート企業として「くるみん」認定を取得しました。また、女性の活躍推進に関する取り組みが優良な企業として厚生労働省より「えるぼし」認定を取得しています。国の認証を受けた取り組みを基盤に、今後も仕事と子育ての両立支援を進めていきます。

